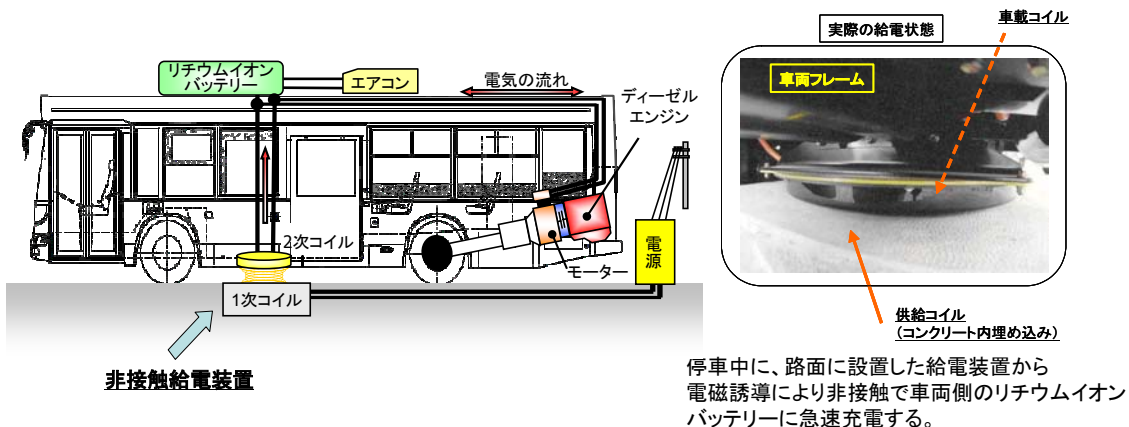


非接触給電ハイブリッドバスの概要

- ・ 非接触給電ハイブリッド自動車は、国土交通省が平成14年度から実施している「次世代低公害車開発・実用化促進プロジェクト」において交通安全環境研究所を中核的研究機関として産官学連携で開発・実用化を進めているものである。
- ・ 非接触給電ハイブリッドシステムは、路面等に埋め込んだ給電装置から電磁誘導により、非接触(充電用のコード等を用いない)で車両側のバッテリーに急速に大量充電するものである。
- ・ 外部から充電することにより、通常は電気で走行し、走行中の排出ガス・CO2をゼロとすることができる。
- ・ 平成20年2月には羽田空港のターミナル間のバスとして、同年7月には北海道洞爺湖サミットの国際メディアセンター内でのシャトルバスとして運行を行っている。



【非接触給電ハイブリッドバスの車両諸元】

項目	諸元値
長さ×幅×高さ	10.925m×2.49m×3.285m
車両総重量	15.6ト
定員	63名
バッテリー性能	電気のみで走行した場合、市街地で約15km走行可能



非接触給電ハイブリッドバス外観(イメージ図)